

は」に通っていた利用者の方たちです。制度上、生活訓練事業所に通えるのは2年以内と決められているので、「いろは」を「卒業」していくことになります。「いろは」の1期生として卒業していく人たち3、4人が、「卒業後も『いろは』に関わりたい、何か『いろは』の役に立ちたい」と言ってくれたんですね。それで我々スタッフと話し合って、「ピアサポーターという形で来てもらおう」ということになったという経緯です。



よしみ **ピアサポーター**



じゃまいか **ピアサポーター**

太田 栄仁会からではなく、当事者の方々の声から取り組みが始まったわけですね。

山崎 そのとき手を挙げてくださったうちの1人が、今日参加されているよしみさんです。

Q よしみさんの、当時のお気持ちは？

よしみ 利用者として通っていた「生活訓練いろは」が私にとってはとても過ごしやすい場所だったんですね。それなのに、卒業したらもう来られないと思ったら寂しくて、「今後に関われる方法はないですか？」って相談したんです。

ピアサポーターだからできること

Q 栄仁会のピアサポーターになるために、研修も受ける必要があるそうですね。

よしみ そうですね。研修は、「ピアサポートとは何か？」という講義から始まって、「会話のキャッチボール」になるような話し方の練習をしたり……。あとは「リカバリーストーリー」といって、病気を抱えながらも主体的に生活していくという経緯を文章にまとめたりしました。

山崎 それを話していただくこともピアサポートの現場ですごく力になるんです。

Q じゃまいかさんは、どういう経緯でピアサポーターに？

じゃまいか 私が通っている作業所に、山崎さんが栄仁会ピアサポーター研修のチラシを持ってこられて、それを見て「受けてみたい」と思いました。私は元々福祉系の大学を出ていて、相談員を目指していたのですが、病気になって一度はあきらめたんです。なので、「チャンスだ」と思いました。将来的には相談員になりたいので、そのための大事なステップになるな、と……。私にとつ

て、ピアサポーターの活動は、一度はあきらめた夢につながっている「希望の光」なんです。

山崎 よしみさんたち1期生がピアサポーターとして頑張ってくれたおかげで、「もっとピアサポーターを増やしたい」という声が上がって、栄仁会として研修を開いてピアサポートを広めていくということになったんです。そこに参加してくださった1人がじゃまいかさんでした。

Q ピアサポーターさんたちは、具体的にどのような活動をされているのでしょうか？

太田 僕はいま「生活訓練いろは」の管理者を務めていますが、その「いろは」のプログラムを一緒に行っていたことが、活動の1つの軸ですね。通ってくる利用者さんに楽しんでもらえるようなプログラムを、一緒に考えて実施しています。

よしみ たとえば、利用者さんたちと一緒に料理をしたリ。

太田 季節ごとの行事などもよく行うのですが、よしみさんは中心的存在となっています。

山崎 私は「ホッと入院」という病棟プログラムで、ピアサポーターさんたちと活動しています。

Q 「ホッと入院」については、前々号（32号）の特集でも少し紹介しました。入院患者さんに、病気について学んでもらう講義プログラムですね。医師や薬剤師などが交替で講師役を務めると聞きましたが、ピアサポーターさんも講師になるのですか？

福徳 そうなんです。専門職の講義も大切ですが、当事者の経験も、患者さんにとって大きな学びになりますから。

つい先日、じゃまいかさんに「ホッと入院」の講師を